

動物

の

診察室

から

○ 71 ○

昨年12月29日、ラブラドルの「ラブ」ちゃんが歯が悪いようなので、歯石を取ってもらいたいと連れてこられました。

ラブちゃんは13歳半の男の子です。数カ月前に35歳だった体重は28kgに落ちており、口の中をみると、右下の歯ぐきは腫れていて、それは腫瘍と思われました。すぐに検査を行いました。ラブちゃんには、左胸腔内に大きな腫瘍と、気管の

が、お父さまの仕事の関係で、お父さまと2人暮らしです。お父さまはラ

ブちゃんをとてかわいがっており、病気の説明をすると涙ぐみ、あど

れくらい生きられるのですかと聞かれました。口

の中だけでなく、転移があることを考えると、残り後1カ月ほどと思われる

## 家族の愛情と相乗効果

### サリドマイド

背側にも腫瘍があることがわかりました。右下顎の腫瘍は、すでに中心より左に入り込んでおり、下顎骨へも浸潤していま

ました。そして治療は、外科的な処置はしないので、ステロイドと抗生剤だけ投与することにしたのです。

そして、下顎部の組織を一部採取し、病理検査にだした結果は、悪性の腫瘍でした。

ラブちゃんは、以前は東京に住んでいました

しかし、お正月が明けお父さまよりラブちゃんの治療について、提案があったのです。お父さまは、毎日、口の腫瘍が大きくなっていくラブ

ちゃんをみていて、ラブちゃんに「つらくない治療ならできる限りのことをしてあげたい」と考えていました。ラブちゃんのお父

さまは、研究者で、獣医師でもあります。そして、

腫瘍が見つかったから2カ月になります。お父

師でもあります。そして、いろいろな調べて、サリドマイドをラブちゃんに使ってほしいとのことでした。

でも、日本国内では販売されていない、外国から輸入しなくてはなりません。そして、サリド

お父さまの大事なラブちゃんです



イドの過去の経緯から個人輸入をする際には厚生労働省が管轄する機関にも届け出が必要で

す。しかしすぐに、輸入の申請をし、1月31日から

サリドマイドの投与が始まりました。サリドマイドに

は、大きな腫瘍をなくす作用はありません。しかし、投与後のラブちゃんには、腫瘍の大きさは同じなのですが、腫瘍が固く縮まってきて腫瘍の血管も細くなってきて、出血することも少なくなってきたのです。